



松本市は「楽都松本」と言われ、「セイジ・オザワ松本フェスティバル」を筆頭に音楽のイベントが多く、年間通して色々なジャンルの生演奏が街中を流れています。北アルプスの麓にあり、その気候ギター等の楽器メーカーが集積し、松本産の楽器は評価が高いとのこと。そんな風土に根ざす当院は、平成30年に2病院が一体化し、急性期医療から慢性期医療まで様々な診療機能を有する病院として地域に貢献しています。私たち保育士は、「重症心身障害児（者）」「小児急性期」「通所支援事業」「病児保育室」と多岐に渡り担当しています。

まつもと医療センター

3年前の新型コロナウイルス感染症の流行により、行事や療育活動の制限を余儀なくされた重症心身障害児（者）病棟の利用者の方々の生活が一変してしまったことは、私たちに大きな課題を与えました。如何にして利用者の方々の安全を守りつつ、楽しみのある生活を保障するか…そんな時、当院の臨床工学技士である峰村氏が三線による演奏と歌のコンサートを開催してくれました。デイルームでは大勢に、居室では小規模に、場所を選ばずに開催できるのが特長の楽器、病棟間を行き来できる職員ならではの催しです。外部との接触を断られたこの時期、病棟職員との関わり合いしか持てなかった利用者の方々にとって、新鮮な交流の場でもありました。コロナ禍による行動制限は機構の他施設も抱えていた問題であったことから、他施設とリモートでコンサートを共有したこともあります。以来、峰村氏は毎週1回、各病棟と通所でのコンサートを、この3年もの間欠かさず行ってくれました。そして今なお継続されています。

病院が一体化する以前、ロビーでのコンサートを毎月1回夕食後に開催していました。それは事務部職員によって生中継され、ロビーに来ることができない一般病棟の患者様も病室のテレビで鑑賞できるシステムでした。演者はボランティアで、プロの音楽家や地域の方、学生の皆さん等様々です。当時の院長・副院長、現副院長も音楽に長けておられ、コンサートに出演してくれました。そこに峰村氏が加わり、私たちは初めて三線という沖縄の楽器と出会ったのです。重心病棟の利用者の方々にとって、ロビーコンサートは色々な音楽と人々に触れ、情操豊かに経験の幅を広げてくれる貴重なイベントでした。現在まで、ロビーでのコンサートは実施されていませんが、コンサートを楽しみにしていた終末期にある利用者様のベッドサイドで、その方のお好きな曲をリクエストして、二人だけのコンサートをしたこともあります。その時の嬉しそうな表情は、利用者様の最期の笑顔となりました。

峰村氏の三線で演奏される曲は、沖縄民謡の他にも、童謡、Jポップ等と幅広く、年々レパートリーを増やしています。曲を楽譜に起こすのにも時間がかかり、練習等含めて中々容易なことではないと思うのですが、「皆さんのリクエストに応えられるようになって、できるだけ多くの方々に喜んでほしい。」と峰村氏。忙しい業務の傍ら、何よりも優先して利用者の方々のごところに駆けつけ、演奏を終るといつも「ありがとうございました」と深々頭を下げます。「こちらがお礼を申す側ですよ」と言うのですが、「いやいや、こちらこそ演奏させてもらって本当に感謝しています。保育士の皆様に時間と場所を作っていただき、利用者の方々に演奏や歌を聴いていただき、ありがとうございます」と、話されます。そんな峰村氏の想いは利用者の方々へ毎回届いているご様子。鑑賞中の皆さんの表情はとても穏やか、笑みがこぼれます。

皆さんも是非、リモートで、心のこもった音楽とつながり、**笑顔の時間**を過ごしませんか？

峰村氏三線リモートコンサート等お問い合わせ:まつもと医療センター療育指導室 主任保育士 高橋 TEL0263-58-4567